京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町３０-２
ラボール京都５階
京都原水爆被災者懇談会気付
ＴＥＬ075-811-3203
ＦＡＸ075-811-3213
ＨＰ http://aogiri2-3.jp

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*(Atomic Bomb Survivors)

２０２３年３月１日　３・１ビキニデー久保山愛吉さん墓前祭行進　京都代表団のみなさんとともに

２０２３年度年次総会のお知らせ　２
２０２３年度年会費お支払いのお願い　２
３・１ビキニデー現地集会　参加者レポート　３
被爆二世・三世の今とこれから　②　　平　信行　６
語り継ぎプロジェクト「被爆者の生きる証を描いて」参加者の感想　紹介　１１
会員から会員へ　みなさんからのお便り紹介　１２
本・ＤＶＤ・映画・番組の紹介と交流　１３
「最近観た芝居は？観劇、感激が劇団・俳優を応援に!」
「数奇な航海　―　私は第五福竜丸」
SCRAPBOOK／「『空白の天気図』世界を再現」（中國）　１４
「広島市平和教材、『第五福竜丸』も削除」（毎日）　１５
編集後記　１５
２０２３年４月の行事カレンダー　１６

別冊

被爆体験の継承（９８）　あの日の一部始終を生涯忘れることはない　　柳橋皓子さん

2023年度年次総会のお知らせ

■日　時　2023年5月13日(土)　13時30分～16時30分

■会　場　ラボール京都第1会議室　＋　オンライン(ZOOM)

■記念講演　竹峰　誠一郎　明星大学人文学部教授

(仮題)グローバル・ヒバクシャ　終わりなき核被害を生きる人々
二世・三世への影響も含めて

中部太平洋のマーシャル諸島は、戦後アメリカの核実験が６７回も繰り返された島しょです。竹峰教授は長年に渡り、現地を何度も訪問され、フィールドワークによって被害に遭った人たちの実態に迫られてきた研究者です。

ご講演から、被爆二世・三世も含めて世界の核被害者の実態を知り、私たちの運動のめざす方向を深め、より確信のあるものにしていきたいと思います。

2023年度年会費お支払いのお願い

京都「被爆二世・三世の会」の会計年度は４月１日～３月３１日です。
２０２３年度会費のお支払いをお願いします。年会費は２，０００円です。

■　**振込でお支払いいただく場合は以下にお願いします。**
郵便振替　記号０１０７０－６　番号４７８７０
加入者名　京都原水爆被災者懇談会
通信欄に「二世・三世の会」会費とご記入下さい。

■　**京都銀行四条支店　店番１１１　口座番号４４７９６３**
口座名　京都原水爆被災者懇談会　振込いただいたらご一報ください。

■　**５月１３日年次総会の場でも受領いたします。**

- 複数年のお支払いもしていただけます。
- 年会費とは別に活動援助金（カンパ）のご協力もお願いしています。

4年ぶりの現地集会

2023年3・1ビキニデー集会 参加レポート

■あらためて3・1ビキニデーは核兵器なくす運動の決意の場

米重節男(向日市)

１．２月２８日と３月１日に参加しました。久しぶりの現地開催ができて良かったです。私は、前回は２０１７年に参加したのですが、この間に情勢が大きく変化したことを実感しました。核兵器禁止条約が成立し発効したこととそれにより、国際社会での核保有国と非保有国の間での主張の本筋が入れ替わったこと。ビキニ水爆実験被災の掘り起こしが進んで、核被害者が世界に広く知られつつあること。さらにロシアのウクライナ侵略戦争で、核兵器使用と原発破壊が目の前で現実となる恐れが広く覆っていることと、それを許してはならないとする国際世論が綱引きしている中での３．１ビキニデーは、改めて核兵器をなくす運動を進める決意の場となってと思います。

２．２８日原水協全国集会

① 杉並区長の岸本聡子さんはビデオメッセージで、杉並区制９０年で杉並区の５ストーリーの一つに水爆禁止署名運動があると紹介されました。ビキニ水爆実験被災で水爆禁止の署名運動が、杉並区の公民館活動と女性団体などから始まり、原水禁世界大会につながり、現在の取組になった歴史に触れて、連帯の挨拶がありました。

②全国の報告の中で、鹿児島県の馬毛島での自衛隊基地設置との闘いがありました。種子島は工事関係者がどっと押し寄せており、宿泊の住宅不足で宿はどこも満員だとのこと。工事では日当２万円、月７０万円という話もあり、基地工事バブル状態になっている。一方でウクライナでの戦争が起こって、馬毛島の基地はいざとなったら真っ先に攻撃目標になるという可能性が大きくなり、単に経済効果で基地賛成した人からは戸惑いも出ているとの報告は、現地情報が報道されない中で驚きの実態を知ることができました。政府が、経済を目玉にして強引に押し付け住民を分断するやり方は、基地・原発・大型開発工事などに共通している手法で、政治の悪さに改めて怒りがわきます。

③第３分科会「被爆者援護・連帯」に参加しました。小山美砂さんの「黒い雨」訴訟の話は、原爆「被爆者」の「定義」を根本から問い直すものだということを痛感しました。京都「被爆二世・三世の会」で、一度お話を聞きましたが、さらに深めることができました。長崎の「被爆者体験者」や被爆区域の問題など、「被爆者」とはどういう人なのか根本から見直しが必要だと感じました。

　分科会の報告で被爆者に関して、すでに「組織された被爆者」も、高齢化や被爆者の会の消滅で社会から孤立しているとの指摘があり、被爆者は時間との闘いだということがよくわかりました。その点からも２世が被爆者の運動を引き継いでいくことが求められていると感じます。

　京都「被爆二世・三世の会」の活動を平さんが報告して、参加者から注目が集まりました。

３．「ビキニデー集会」

①第五福竜丸の元乗組員の故大石又七さんの義理の妹になる河村惠子さんが、これまで福竜丸の事件に関心を持ってこなかったが、亡くなった大

石さんのことを最近になって知り、これからはしっかりと語り伝えていかなければならないとの決意を話されたのは、驚くことでしたがビキニ被爆がいまも続いていると思うことでした。また高知の漁船で被爆した人の遺族が裁判で闘っていく訴えは、希望の見えることでした。
②ゴスペル亭パウロさんの落語「私の名前は第五福竜丸」は、福竜丸の歴史をわかりやすく、臨場感あふれる内容で良かったです。欲をいえば、講談調に仕立てたらより面白かったのではないかと感じました。
③海外代表からの話では、核兵器禁止条約をまだ批准していないマーシャル諸島が抱える深刻な問題、核実験の後始末もできないうえに、温暖化で島が水没の危機にあることが報告されました。韓国の青年が、米国の原爆投下責任を問う裁判を開くという報告は、素晴らしいことです。本来なら日本がしなければならないことなのにと思うと、しっかり成功させるように日本でも連帯していく必要があると受け止めました。

■富士山には「平和」の二文字がよく似合う

小林こうき（宇治市）

初めて、静岡現地での３．１ビキニデー集会への参加でした。静岡駅は仕事で訪れたことはありましたが、集会会場の東静岡駅に降りたのは初めてです。天候にも恵まれ、改札を出ると正面に富士山が迎えてくれ感激。私はいつからか富士山には「平和」の二字が似合うなとの思いで眺めていました。今回は、スマホで富士山の写し集会スローガン「核兵器のない世界へ」の文字入れしたくなりました。

２８日の原水協の全体集会での作家の平野啓一郎さん「核兵器は人間に対しても、地球に対しても甚大な被害をもたらす。理想がなければ世界は前進しない。理想とは地球上から核兵器をなくすこと。そのため具体的な一歩を踏み出そう」と呼びかけられた連帯のあいさつは印象的なことばでした。

第三分科会「被爆者援護・連帯」に参加。全体集会に連帯のあいつをされたジャーナリスト小山美砂さんから「黒い雨」被爆者の現状と課題について特別報告がされ、「黒い雨」訴訟で新たな線引き・差別で救われない「被爆者」が生まれていることに悲しさと、政府への怒りを感じました。

３月１日の焼津駅前から米国のビキニ環礁での核実験の犠牲となられた久保山さんの眠る弘徳寺墓前への「献花墓参平和行進」に参加し、久保山さんが遺した「原水爆の被害者は私を最後に」という言葉をかみしめ歩くことができ、核兵器禁止条約への日本政府の批准を求める行動への参加をしていきたいとの思いを強くしました。

第五福竜丸の乗組員として被曝し、昨年亡くなった大石又七さんの義妹、河村恵子さん（７４）は、プーチン大統領を批判。「核兵器で脅すような言葉を言えるということが恐ろしい」と憤りをあらわにしました。

午後からの「３・1 ビキニデー集会」での、第五福竜丸元乗組員・大石又七さんの義妹さんの「子や孫にこの世界を残さないために、義兄の遺志を継いで第五福竜丸被曝の事実と、核の問題を伝えていきたい」と決意。高知ビキニ被災船員のたたかい・マーシャルからの報告には知らなかったことが多く衝撃を受けると同時に、米国がマーシャル諸島で繰り返された核実験で加発された「核の傘」に依存を強めていることに憤りを感じました。

ビキニデー集会会場から富士山をのぞむ

■原水協集会で初めて「被爆二世・三世問題」報告

平　信行（南区）

3月1日　焼津駅から久保山愛吉さんの墓参行進

２０２３年３・１ビキニデーは、コロナのため３年のブランクを経て、４年ぶりの現地集会開催、私自身久方ぶりに現地静岡・焼津を訪れることになりました。この３年間、世界は、日本も大きな変動がありました。そのことを色濃く反映したビキニデー集会だったと思います。

２０２１年１月２２日核兵器禁止条約が発効し、署名国は今９２ヶ国、批准国は６８ヶ国に至ります。昨年６月には第１回締約国会議が開催され、今年１１月からの第２回締約国会議に向けて条約執行に向けた準備が着々と進められています。日本国内だけではなかなか伝わらない、世界の確信に満ちたうねりのような歩みが、海外代表の発言を通じてもたらされます。

一方でロシアのウクライナ侵攻は、当然私たちの行く手に暗い影を落としています。世界の人々が手をとりあって、危機を乗り越えていこうとする強烈なアピールも今回のビキニデーの大きな特徴だったように思います。

３・1 ビキニデーは、原水爆禁止、核兵器廃絶運動の原点です。６８年前のアメリカによるマーシャル諸島・ビキニ環礁水爆実験による被害と危機感から、国民的規模の署名運動は始まり、それを世界につなぐ原水禁世界大会へと広がっていきました。原点を記念し、今なお達成できていない核廃絶をなし遂げるための決意を誓い合う場です。同時に、６８年前の事件によって今現在も苦しめられている被害の救済をめざす機会でもあります。ロンゲラップ島民代表・マーシャル諸島共和国元上院議員のアバッカ・アンジャイン・マディソンさんから今も続くマーシャルの人々の深刻な被害状況が報告されました。アバッカさんによるとマーシャル諸島共和国は意外にも核兵器禁止条約に消極的でいまだ批准していないとのこと。日本の核廃絶運動のみなさんに、共和国政府に批准をはたらきかけてくれるよう、しきりと訴えられたので印象的でした。

ビキニ被害は当時のマグロ漁船乗組員の人々にも及んでいます。今、国家賠償と労災認定による被害補償を求めて二つの裁判が行われており、遺族の方含めた粘り強い闘いが続付けられていることも詳しく報告されました。

核兵器禁止条約第６条は「被害者に対する援助および環境の修復」です。核兵器被害者への適切な援助、汚染地域の修復を定めています。マーシャル諸島含む世界の核実験被害者と汚染地域に対して条約が大きな力を発揮することを期待していきたいと思います。

ビキニ集会では８つの分科会が設定され、私は第３分科会「被爆者援護・連帯～核兵器禁止条約を力に～」に参加しました。内容は、前半は「黒い雨」被害について、後半は「被爆二世・三世」についてでした。前半の「黒い雨」被害については、ジャーナリストの小山美砂さんから、広島高裁判決確定後の状況が詳しく話されました。広島ではせっかく素晴らしい判決が確定していながら、いざ被爆者手帳の交付申請をすると、現在１５０人近い人々が不当な却下処分の扱いを受けていること、長崎はまったく切り捨てられてしまい、これから重大な問題になっていくことなどが報告されました。

「二世・三世」については私も基調報告者の一人となり、１５分間だけの時間ではありましたが、京都の活動を簡潔に紹介することになりました。私の報告の内容や参加者の受け止めがどうであったかは別にしても、原水協の公式の場で、「二世・三世」テーマが設定されたのは初めてのことではないかと思います。そういう意味では歴史的であったかもしれません。これを機会に、原水協

の場においても「二世・三世」問題が積極的に話し合われ、討議が積み重ねられていくことを願わずにはおられませんでした。

2日目　海外代表との交流　若い韓国の代表たち

集会２日目の「３・１ビキニデー集会」も充実した内容で行われました。その中で特別印象深かったことを一つだけ紹介します。プログラムの一つに「世界大会・ＮＰＴ・禁止条約第２回締約国会議にむけて―海外代表との交流」がありました。海外のゲストは４人でしたが、その内の２人は韓国の人で、いずれも若い～おそらく２０歳代～の女性でした。二人ともＳＰＡＲＫという平和運動団体の人で一人は国際連帯部長、もう一人は青年メンバーという紹介でした。“韓国の反核・平和運動はこんな若い人たちの手によって担われ、リーダーシップがとられているのか！”という、衝撃に近い驚きでした。今計画されている「原爆投下を裁く市民法廷」キャンペーンもこうした若い人々の手によって進められているのだそうです。月並みな感想になってしまいますが、韓国の若い人々の活動に私たち日本の運動家は大いに学ぶ必要がある、ことを痛感しました。

****

被爆二世・三世の今とこれから　②

～京都「被爆二世・三世の会」の現状に即して～

2023年1月28日　2023年新春関西原水協学校／講義2　　平　信行（南区）

会報前号№.１２４（２０２３年２月号）からの続きです。

■放射線影響研究所（旧ABCC）の被爆二世調査の根本的問題

放射線影響研究所の調査で、「被爆二世には遺伝的影響はみられない」という結論でもって、色々なことが推し量られているわけですけど、そもそも放影研の被爆二世の調査のありかたについて私たちは根本的な疑問を抱いていて、問題提起をしています。

ひとつは、放影研の発表する被爆二世調査というのは、これは被爆者の調査もそうなのですけど、被爆者と非被爆者とを比較して、その間に有意な差、違いがあるかどうかという方法での疫学調査と発表なのですね。じゃあ被爆者とはどういう条件に該当する人たちなのか、非被爆者とはどういう人たちなのか、ということが問題となる。広島の場合は爆心地から２・５㌔、長崎では２・７㌔以内で直接被爆をした人が被爆者であって、それを超える人たちは、すべて非被爆者という扱いになっているわけです。ですから私たちからすれば、それは被爆者と被爆者を比較して、その間に有意な差がないと言っているに過ぎないのじゃないか。たとえ２・７㌔でも３㌔でも被爆者は被爆者で、実際に放射線の被害を浴びているわけですよね。私の父は５㌔、母は４㌔で被爆しているので

すけど、このＡＢＣＣの基準でいけば、父母とも被爆者ではなくなるわけであって、そのような比較対象による調査が本当に正しいのだろうか。そうではないのではないだろうか、というのが一点目です。

二つ目は、ＡＢＣＣの調査項目は、亡くなった人の例とか、癌とか、そういう、非常に特徴的な疾病や異常状態についてのみ調査していて、あとでも触れますが、実際に被爆二世が発症しているいろいろな病気というのは単純にそんなもので割り切れるものではなく、非常に複雑で幅広く、奥深いもの。そういう全面的な調査に基づいた調査結果では必ずしもない、ということです。

それから３点目は有意差とか異常は見出されていないという結論なのですけど、その根拠の検査項目や検査値、データがこれまで示されたことがない。

そして最後に、国の態度のところで触れたことですけど、親の被爆によって被爆二世に生じる成人期発祥の疾患については、現在も疫学調査が続けられていて、確定的な結果を示すにはまだ至っていないのだ、と。だから今後数十年かけて調査を継続する必要性ある、と。だから矛盾したことになるのですけど、遺伝的影響を完全に否定できているわけではないのじゃないか、ということになるわけですね。一方で被爆二世は生涯にわたって調査研究、サンプル、モルモットとして扱っていこうという姿勢がここにはある。

こういう根本的な、重大な問題を持った放影研の調査である。そのようなものを根拠にして、私たち被爆二世・三世についての今後を語ることは許されないのではないか。これが私たちの基本的な考え方になっているのです。

■私たちの基本的スタンス

私たちの基本的なスタンスということを繰り返しますと、①、遺伝的影響は健康生活に影響を及ぼし、心身に苦痛を与える。もっともっと包括的に捉えていく必要がある。そのために我々自身が主体的に調査研究をしていく必要がある。②、我々だけじゃなくて良心的な医師や科学者の協力も得て、社会的にも発信していきたい。③、そもそも、遺伝的影響の有無を完璧に、医学的科学的に解明してその結果に基づいて、それが明らかにされない限りは保障しないという態度は許されない、とこのように思っています。一昨年、広島の黒い雨訴訟の第二審判決がありました。判決内容で非常に重要であった点は、“高度な科学的立証を住民側に求めて、病気と放射線の因果関係の証明を求めることはしてはならない”ということであったと思います。それは私たち被爆二世に対する対処についても基本的には同じことが言えるわけであって、そういうスタンスを持ってこれからも臨んでいきたいと思っています。

そういうことに基づいて日本被団協は厚労省に被爆二世の援護施策を要求しているわけですけど、先ほど参議院での過去の採択の結果を紹介しましたが、そこと重なる部分も多いのですけど、私たちは被爆者と同じように被爆者援護法の適用範囲に被爆二世も含めて保障していくことを基本に、これから求めていきたいと思っています。

■京都「被爆二世・三世の会」の健康調査アンケートのとりくみ

もう時間がなくなっちゃったので申し訳ないのですけど、もう一つは、先ほど紹介したように、京都「被爆二世・三世の会」で、２０２０年から健康アンケート調査というのを取り組んできています。これは、放射線被ばくが世代を超えて影響がある、遺伝的影響は実態としてはどうなのか、というのを、生の声で、具体的につかんでいこう、という運動でして、アンケートとして、取り組んできているものです。右に図を紹介していますけど、これがアンケート調査の内容で、結構分厚く、詳しいものになっています。

被爆2世・3世と、そして未来世代の健康を守るために
あなたのことを聞かせてください
被爆2世・3世健康調査アンケート
2020年
京都「被爆2世・3世の会」

コロナの関係もありまして、思うように運動が進まなかった時期も

ありましたがこれまで、昨年末までに二世の回答者数は１０１人ほど得ています。今、集計、解析中なのですけど、それはこの１０１人の回答者を対象に進めてきています。京都の被爆二世・三世が中心ですけど、京都だけに限定せずに、東京、神奈川など、ここに書かれている色々な都道府県から、つながりを生かして、二世、三世と分かっている人たちについては「ぜひアンケートに協力してください」と訴えて、協力をお願いして回答を得てきました。そういうものとして、まとめたものを、今、準備中です。

今日は、そのごくごく一部を、だいたいこんなことが特徴としてありましたよ、ということを紹介させて頂きたいと思っています。

■この世に生まれてくることのできなかった、乳児のまま亡くなってしまった二世・三世たち

いま現在取り組んでいるアンケートは、当然、現在生存されている被爆二世あるいは三世の人たちの回答なのですね。私たちがちゃんと見ておく必要があるな、と思うのは、いま現在も生存している二世・三世ではなく、せっかくこの世に生まれようとしていながら、結果的に生まれてくることができなかった、あるいは生まれたけど、乳児のまま亡くなってしまった、そういう二世・三世たちも実は多いのじゃないか。そこをきちっと、できる限り見ていく必要がある、ということで、そういう問題意識を持ってとりくんできました。

単純な回答でいえば、ここに紹介していますように、例えば本当は私にはお兄さんがいたのだけど生まれるまでに亡くなってしまった、とか、親に聞けば本当は兄弟の間にもうひとり子どもがいたけどそれは新生児のまま亡くなってしまったとか、そのように回答された人たちが、１０１人のうち、１０人はいた、ということです。実はここには含まれていない回答者も結構ありまして、あとで簡単に触れますけど、本当はもっと多いのではないか、と実感として持っています。あるいは、回答を寄せた二世、三世自らも流産等をした経験というのも９人ほどが回答しています。このあたりは、もっともっと、深めていく、正確にしていく必要があると思っています。

■森川聖詩さんの半生に沿って同じ症状、疾病のチェック

それから今回のアンケートの一つの特徴は、実際に過去、いろんな人たちの体験や文献やデータなどで明らかにされている被爆者、あるいは被爆二世あるいは三世の体験をずっと紹介しながら、その中で、「あ、私も同じ体験をしている」ということを実感してもらう。そういうアンケートの仕方を重視してやってきました。その最大のものが、ここに画像で紹介している『核なき未来へ』という本を書かれた神奈川県在住の森川さんという被爆二世の方がいらっしゃるのですけど、今日もＺＯＯＭで参加してもらっていると思うのですけど、この方が詳細に自分自身の半生といいますか、健康履歴のようなものを記録されていて、紹介されています。これをできるだけまとめて、アンケートの中に紹介して、それを参考にしながら、私も同じ体験をしている、というようなことがあるかないか点検する、そういうやり方をしてきました。項目としてはもっとたくさんの症例があがっているのですけど、全部紹介するのはスペース的に無理があるので、今日は全体で１０人以上の人が同じ体験をしている、という症例をここにリストアップして紹介しています。

例えば一番最初にあがっています、小学生の頃夏はいつも暑さで体調をくずしおなかを壊し下痢をし、ぐったりしてひたすら横になって休んでいた。同じ体験をした人は１６人。いつも何かしらの不調を感じ、脱力感と疲れやすさが我が身を襲う、１４人。こういう体験というのは、例えば何々病とか何々疾患とか、そういう病名がつけられないような体験。しかし、本当に当事者にとっては深刻で、大変な、幼い頃の体験なわけですよね。そういう具体的な体験を紹介しながら、それに応じた回答をさせてもらう、ということで、子どものころの、体調の悪さ、というところに共通して回答された人が非常に多かった、というのがあります。

それから、その次に、ケガをするとかすり傷程度でもなかなか治らず、化膿して炎症を起こす、１４人となっていますが、こういう体験をされた二世も非常に多いのですね。アンケートにまとめ

てしまうと、１４という数字で終わっちゃうのですけど、実際にはこのアンケート回答の中にたくさんの同じような回答をされている人があります。これは免疫力の問題といいますか、免疫力の疾患といいますか、そういうものが大きく影響していると思いますけど、本当に化膿しやすい、ケガをするとそれがいつまでも治らない。そのことで悶々とした少年時代、青年時代、それから大人になった今でも続いている、ということを被爆二世は共通して体験している人が非常に多くなっております。

あとは全部紹介できないのですけど、蓄膿症とかですね、鼻に関わる疾患ですとか、椎間板ヘルニアとか、そういうことも多くありました。

■被爆者の健康管理手当支給対象と同じ11疾病を体験している人

次にあげていますのは、被爆者援護法で被爆者の皆さんが健康管理手当を受給されてますけど、それに該当する疾病というのが１１疾病あって、造血機能障害から、潰瘍による消化器官機能障害までですけど、この被爆者の皆さんが強く放射線被害、原爆による被害の影響を受けたであろうとみなされて、こういう疾患があげられているわけですけど、これと同じ病気を経験している被爆二世がどれくらいあるかという割合で回答をしてもらいました。これは人数をカットせずに、回答者全員をあげております。例えば、①の造血機能障害。白血球減少などが該当しますがこれが９人。それから細胞増殖機能障害に相当するがんや白血病などが６人。あと多いのは糖尿病等等の内分泌腺機能障害１８人とかですね。あとは、高血圧の循環機器の障害。とこのようになっています。

■自由記入欄から被爆二世の傷病体験を読む

たくさんあるアンケート項目の中で最後にあげていますのは、チェック項目で選ぶ回答方式ではなくて、自由に自分の体験を、傷病歴を手書きで書きこんでください、という質問項目もあって、そこに書いてもらったたくさんの回答の中からリストアップして、ここでは主なものだけ紹介をさせてもらいました。

最初に、小見出しの**「この世に生きることのできなかった二世たち」**です。これはちゃんと生まれることができなかった、育つことができなかった二世が非常に多いのじゃないかという問題意識から、その具体的な例をあげさせてもらったものです。これは先ほどと重なることが多いので詳しくは省略させていただきます。

二つ目は、これも先ほどの紹介と重なりますが、多くの二世に共通する、特に子供のころから化膿しやすい体質だったとか、などなど、共通してあげている方が非常に多くあることです。小見出しは**「多くの二世に共通する―子どもの頃からの化膿しやすい体質、下痢、腹痛、乗り物酔い、ひどい鼻血」**です。特に、乗り物酔いはかなりの人が共通していて、それもひどい乗り物酔いを経験されている人が多くありました。それから鼻血ですね。鼻血については、自分だけじゃなくて、親や兄弟、あるいは自分の子どもまで含めて、経験されている方、そういう例も少なくありません。

体育の授業は小学校のころから高校まで、ちゃんと受けることができなかった、とか、全部見学だった、とか、そういう深刻な体験をされている人も結構あります。それはもう健康上の問題に止まらない、ひとりの人間としての生活、成長の問題としても、深刻な問題じゃないかなと思います。小見出しは**「小学生の頃から体育の授業は見学ばかりだった」**にまとめています。

次に歯の異常を訴える人も結構あり、**「歯の異常も」**にまとめました。私もそうなのですけど、今７１歳ですけど、５６歳のころ、歯が抜け始めたのです。１本１本と。５１歳のころから抜け始めて、５６歳の頃にほとんど抜けちゃって、部分入れ歯じゃ対応できなくなって、最終的には残った１本か２本を抜歯して総入れ歯になってしまいました。そのような経験をしています。同じように、歯についての異常を経験している人たちも

多くありました。

それから、被爆二世の健康障害というのは、子どものころ、少年青年時代だけではなくて、今現在も続いている。大人になっても、生涯続いている。そういう例も、全部じゃないのですけど、今もそういう状態は続いているのですよ、ということを紹介したくて、ここには挙げました。小見出しは**「疾病、健康障害と闘う二世たち」**です。

癌を発症した被爆二世はやっぱり多いです。**「がん発症の二世は多い」**私も胃がんを発症してるのですけど、いろんな人がいろんな癌を発症していて、それは今も続いている、ということで、ここはごく簡単にしてますけど、強調しておきたいと思います。

■私の傷病歴

最後に、私の障害歴というのを簡単に紹介させていただきます。私は糖尿病を４８歳の時に発症しました。勤め先の定期健康診断で突然診断されたのですけど、糖尿病だけじゃなくて高血圧、高脂血症も、と。関係して眼の方も単純網膜症だと診断されて治療を続けています。歯については先ほど言ったとおり、５０代で全部入れ歯になりました。それから内痔核の手術も過去何回も繰り返しています。３年前なのですけど、胃がんの全摘手術をしています。人間ドックの胃カメラ検査で分かって、幸いにも、早期発見で、その後は抗がん剤の投与などもしましたけど、今のところ再発は見つかっていません。ただ、私の親近者には癌になった人が一人もいない。そういう生まれだったので、自分は癌には縁はないものと思い込んでいたので、宣告されたときは非常にショックでした。糖尿病の発症とか歯が全部抜けてしまったとか、これは生活習慣病によるものかなと思っていましたけど、しかし胃がんの発症にいたっては、それは、親の被ばくによる遺伝的影響もありうるな、というように思っていますし、遺伝的影響だけじゃなくて、化学物質の蔓延に襲われた世代とか、複合的な要因も重なりあって、私たちの今日の健康状態に至っているのじゃないかな、というように考えています。

非常に駆け足になって申し訳ありませんでしたが、被爆二世・三世、もちろん、二世・三世の人たち全員が異状や問題を抱えているわけでは決してありませんが、そういう異常を自分は体験していなくても、多くの人がこのように体験し、今も生きて、頑張っている。あるいは過去において、悲しい思いに遭ってしまった、という人もたくさんいる、そのことをぜひご理解頂きたいと思います。

■今後に向けて

最後に、今後に向けてどんなことを考えているか紹介します。

今進めています被爆「二世・三世の会」の健康調査アンケートは、まだ解析中でして、今日は本当に中途半端なものですけど、速報値のごくごく一部を紹介しました。これを進めながら、二世・三世にもたらされている健康状態の実態をさらに明らかにしていきたいと思っています。

二つ目には、実態を明らかにするだけじゃなく、それを基本に国の援護施策を求める運動を進めたい。

それから二世・三世が直面してきた問題というのは、健康問題だけではないということを、アンケートを通じて、あらためて思い知ることになりました。例えば心の問題とか、医療上の問題というのは当然経済的負担を伴うわけですね。決して、安い医療費ではない。非常に重たい医療費にもなっていく。それは暮らしの問題にもつながる。あとは社会的差別の問題。それから人と人との絆の問題が損なわれるという問題もたくさんの人が経験しています。健康問題だけでなくて、総合的に、被爆二世・三世とはこういうものである、ということを明らかにしていく取り組みを、今後続けていきたいと思っています。

最後に、広島、長崎の被爆者のもとに生まれた私たち被爆二世・三世だけではなくて、世界のあらゆる核被害者とその二世・三世にも共通する問題として投げかけ、力を合わせて問題解決、救済、そして核廃絶の一旦を担っていくようにしたい。そういう展望をもって、運動を続けていきたいと思っています。

本日はありがとうございました。（了）

語り継ぎプロジェクト「Storytelling for Tomorrow」3月4日企画

「被爆者の生きる証を描いて～被爆二世画家・増田正昭さんの思い～」

参加者の感想　紹介

3月4日（土）、榊原恵美子さん主宰の語り継ぎプロジェクト「Storytelling for Tomorrow」の企画が京都教育文化センターで催されました。当日の参加者の感想を紹介します。

♣複数の方々のご登壇と視点を通して、被爆に対する見方が変わりました。また日本だけでなく、海外とも関係がある内容なので、外国人にとっても他人事でなく、一人でも多くの方々が学べば、より有意義になると感じました。

♣増田さんの描かれた絵を通しての被爆証言の方々の思い、平さんの被爆２世としての思い、早川先生の南方留学生の被爆者オマールさんにまつわるお話、とても内容豊富で有意義でした。とてもいい企画だったと思います。広い視野で被爆問題を考えるすばらしい講演会でした。「人心」のつながり、すごいですね。

♣原爆の悲惨さや被害の状況を描いた作品がたくさんあるのは知っていたけれども、「人物」「ヒバクシャ」を描くことで、ヒロシマ・ナガサキがただの「歴史」ではなく、人間に起こったことなのだと強く伝えられるのだと思った。

「二度とこんなことは起きてほしくないよね」とただ傍観するだけでない、「二度と起こさない」のだと当事者性を持って、世の中を創っていきたいと思った。本日はありがとうございました。

♣平さんの話からあらたに知ること、学ぶことが大きかったです。特に南京出身の京大留学生の話が印象的でした。

オマールさんのお墓の話がとても興味深く、圓光寺さんにはぜひ伺いたいと思います。増田さんの個展にもぜひ行きたいです。

♣増田さん、平さん、早川さんの実人生を伴ったお話に心を動かされました。オマールさんの紙芝居の⑪に「夕焼け小焼けで陽が暮れた」という歌詞を見つけて、自分の実家の歌人だ！と思い、様々なことがつながっていると自分自身の中に落ちた。

早川さんが言われたように、子どもたちの心の中に貴重な教材として残ることが未来につながる明るい光のように思います。

♣ＮＥＴ－ＧＴＡＳで被爆証言を海外発行する事業に取り組んでいますが、被爆体験そのものに加えて、戦後の差別体験含めて伝える必要があるなあと、思うに至りました。

会員から会員へ ✿ みなさんからのお便り紹介

他地域の２世・３世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

■「河野キヨ美さん・三方文子ちゃんへ」を拝読して

久米弘子（弁護士・市民共同法律事務所）

会報№.１２４の「河野キヨ美さん・三方文子ちゃんへ」を拝読しました。文子ちゃんの最期の様子、「死にゆくあなたに何もしてあげることが出来ません。苦しかったでしょう。辛かったでしょう。あれから７０年目の夏が近づきます」――― 毎年夏が近づくたびに思い続けてこられたのでしょうね。

誰にも看取られず、思いを伝えることもできず、生きていた証すら残すことのできなかった被爆者も多数います。こんなことを二度と繰り返してはいけない。幸運にも生き残った者のつとめとして改めてそう思います。

■バイバイ原発きょうとに１２００人

井坂博文（北区）

あの日から１２年、「福島の事故は終息していない」。なのに国・岸田首相は原発回帰の大方針転換。「バイバイ原発きょうと集会」が円山音楽堂で三年ぶりに開かれ、この春一番の暑さにも関わらず１２００人が集まり怒りの声を上げた。

各地の原発ゼロネットをはじめ原発反対を掲げる団体や、キンカン行動の個人からも参加。集会ののちに，京都市役所までデモ行進。私もマイク持参してコーラー頑張りました。

■新美の代表になりました

増田正昭（下京区）

今度、美術家集団『新美』の代表になりました。京都市美術館が京都市京セラ美術館になって展示場使用料が高額となりとても使いづらくなりました。まるで小さな美術家団体は締め出してしまうような措置です。実際、小さな美術家集団は存亡の危機に立たされています。こんな状況に対して、『新美』の代表として頑張っていくつもりです。

■確定申告会場で「被爆二世」の人と

國府幸代（北区）

確定申告の会場で申告相談をしてもらっていると、その相談員の人が被爆二世だと分かりました。色々話をした上で、その相談員さんに「二世の健康調査アンケート」をお願いすることになりました。

また別の日にはある女性の集会で二世の人と出逢いました。この人にもアンケートをお願いすることになりました。

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■最近観た芝居は？　観劇、感激が劇団・俳優を応援に！

紹介　小林こうき（宇治市・京都労演運営委員）

何度か、この会報にも京都労演の例会案内を掲載していただておりますが、京都に１９５６年に発足、間もなく７０年を迎える会員制の演劇鑑賞団体「京都労演」が在るのをご存知でしょうか。「職場に労演のサークルがあり仲間と観ていた」方もおられるではないですか。

コロナ禍で劇場は閉鎖され、俳優をはじめに演劇関係者は表現の場を奪われ、生活の危機にさらされ日本の文化支援の貧困を知らされることにもなりました。昨年に公表された文化庁と独協大による報告書でも、コロナ禍以前の政府の文化支出額は調査した６か国（日本、英、米、仏、独、韓）で最下位。国民一人当たり文化予算は９１３円で韓国の８分の１と報告されています。コロナ禍で「演劇文化を守ろう」と芸術文化団体総がかりの運動で政府も重い腰を上げ「『大規模かつ質の高い文化芸術活動を核とした』アートキャラバン事業」が実施されました。この事業は、日本劇団協議会が事業の受け皿となり各鑑賞会が公演の運営団体になることで参加するもので、この間、会場条件が可能な限り例会開催を続け「公演できる場があり、客席からの拍手に支えられた」と劇団から声をももらえ、会員制で公演の場をつくる鑑賞運動に大切さを感じてします。

「演劇文化」の場を守るためにも、観劇の仲間を増やさなければと取り組んでいます。

京都労演は、会員の運営参加や俳優さんを迎えた交流会の開催など、観劇チケットを買って見に行くお芝居と、京都労演の例会は大きな違いで楽しみでも。今年も７作品（例会）を入会金１０００円と毎月の会費３５００円で生の舞台が楽しめます。４・５・６月は連続例会、５月は今年９０歳の仲代達矢の一人舞台も。どなたでも、いつからでも入会できます。

入会や会費、今年の作品はなど、詳しくは、こちらから京都労演のホームページで。

■数奇な航海　―　私は第五福竜丸　　川井　龍介　著

紹介　石角敏明（長岡京市）

２月初めに「赤旗」でも報道され読まれた人もおられると思いますが、３・１ビキニデーの主人公（？）「第五福龍丸」の数奇な航跡をたどり、多くの人の関わりを知ることも必要なのではないでしょうか。

旬報社　１760 円(税込)

「第五福龍丸」がビキニ環礁で「死の灰」を浴び、釣った魚は処分され、「久保山愛吉さん」が亡くなられ、その後「第五福龍丸」はいわゆる「夢の島」に稽留され朽ち果てるのを待つばかりだった、という事実はみなさんご存じの通り。でも、被爆し「焼津港」入港後、「船」がどのような航跡を辿ったのかは、殆ど知られていないのではないでしょうか。

「夢の島」に係留されるまで、この船は「被曝・放射能」という言葉（？）に翻弄されていく、いつまでも・どこにいっても「放射能汚染」というイメージがついてまわる、その事実を著者は「第五福龍丸」の発言として紹介しています。そして、もっと数奇な運命をたどるのが「エンジン」です。船からもぎとられ他の船に利用されるが沈没し、長年放置されたが、ある人の善意で引揚げに至る経緯も紹介されています。しかし「ビキニ環礁」の放射能汚染問題をクローズアップさせたのも「第五福龍丸」の放射能汚染問題です。そういった面では「役に立った」のでしょうか？でも悲しすぎる事実でもあります。

「船本体」も「エンジン」も建造当初は、日本でもトップクラスであった「漁船、福龍丸」。戦争をきっかけに運命が大きく変転していきます。でも、この「第五福龍丸」を保存するために多くの人が奮闘し、それも無関係であるかのように見える人たちが、どこかで繋がっており、また関わっていた。この事実だけでも数奇な運命を感じてしまいます。これも「第五福龍丸」が繋いだのでしょうか。「ある船」の奇跡の航路をぜひ知って欲しい、と思います。「夢の島」に展示館が建設・展示されるまでの間の多くの人の努力・関わりを知るためにも

Scrap book

■「空白の天気図」世界を再現
展示室改装の平和祈念館　企画展

原爆投下直後の広島地方気象台員たちの奮闘を描いたノンフィクション「空白の天気図」にちなんだ企画展が１５日、広島市中区の国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で始まる。展示室の改装に合わせて、祈念館が主催。気象観測者の視点を通じ、被爆から約１カ月後に台風に襲われた当時の状況を伝える。２０２４年２月２９日までで、無料。

１９４５年９月の枕崎台風の被害を掘り起こした柳田邦男氏の著作と気象台員たちの体験記を基に、約３０分の映像を企画展用に制作。壊滅的な被害を受けた広島で観測を続行した気象台員たちの様子を「欠測しますと、何十年と観測したのが無駄になるんです」などの言葉を交えて振り返る。新設した大型スクリーン（縦２・４メートル、横４・２メートル）で上映する。

枕崎台風が広島を襲った際の雨量計の記録紙など約１０点も展示。作中に登場する気象台技術主任の北勲さん＝当時（３４）＝たち６人の遺影も、遺族から提供を受けて新たに登録した。

開幕に先立ち、１４日に報道向けの内覧会があり、訪れた柳田氏は「核戦争廃絶や災害防止、さまざまな面でお役に立てば」と願った。久保雅之館長は「気象観測の専門家たちの観測力と記録力を通じ、当時の状況を描いたところを見てほしい」と来場を呼びかけている。

（２０２３年3月１５日　中國新聞）

■広島市平和教材、「第五福竜丸」も削除　中学向け、２３年度から

広島市教育委員会は、中学生向けの平和教材から、米国の水爆実験で被ばくしたマグロ漁船「第五福竜丸」の記述を削除することを決めた。被ばくの実相が十分に伝わらないとして、２０２３年度から別の内容に差し替える。授業では今後も取り上げるという。

市教委の平和教材を巡っては、漫画「はだしのゲン」の掲載取りやめも決まっており、日本被団協などが撤回を求めている。

市教委によると、第五福竜丸の記載がなくなるのは、中学生向けの「ひろしま平和ノート」。核兵器を巡る世界の現状をテーマとする章の冒頭で、第五福竜丸について紹介。問題の概要のほか、被ばく半年後に亡くなった無線長の久保山愛吉さんが残した「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉を写真とともに載せている。

市立小中高校で実施されている「平和教育プログラム」の内容を検証する有識者会議で、第五福竜丸の記述が久保山さんの思いを考えることに重点が置かれ、「被ばくの実相を確実に継承する内容になっていない」との指摘があり、市教委が削除を決めた。

新たな教材では、第五福竜丸に代わり、各国の核兵器保有や核軍縮の取り組みに関する内容に差し替える。教員用の指導資料には第五福竜丸の記述を残す。
市教委指導第２課の長屋吉輝課長は「現在の教材と中身は変わるが、第五福竜丸についてはこれまでと変わらず授業で扱っていく」と説明している。

第五福竜丸は 1954 年 3 月 1 日、太平洋・ビキニ環礁で実施された米国の水爆実験で操業中に被ばくした。乗組員 23 人が放射性物質を含んだ「死の灰」を浴びて半年後に久保山さんが死亡し、原水爆禁止運動が広がる転機となった。

（２０２３年３月１日　毎日新聞）

編集後記

▼４年ぶりの３・１ビキニデー現地集会。京都「被爆二世・三世の会」のメンバー３人が参加し、それぞれレポートを寄稿していただきました。思えばこの３年間、激動の世界と日本だったかと思います。そのことも振り返るような集会でした。ビキニデー集会の分科会では被爆「二世・三世」のこともテーマとなりました。私も１月２８日の関西原水協学校で講演した内容を１５分に短縮して発言してきました。これを機会に議論が活発になることを望んでいます。▼昨年末、岸田政権が安全保障政策の大転換を公言して以来、多くの国民の反対意見と懸念の広がりにも関わらず、政権は「戦争する国づくり」の具体化の足を速めています。最近でも、石垣島への陸上自衛隊ミサイル基地開設、全国３００自衛隊基地の「強靭化」計画、京都府精華町をはじめとする弾薬庫の大規模拡大化計画検討等々。間もなく５月には国民平和大行進も始まります。そして夏の原水禁世界大会へと。私たちの暮らしと結びつけ、地に足を付けた草の根の運動をしっかりと進めて行きましょう。（平）

２０２３年4月（卯月）行事カレンダー

月	日	曜	行　　事
４	１	土	
	２	日	
	３	月	
	４	火	
	５	水	
	６	木	６・９行動
	７	金	キンカン行動
	８	土	
	９	日	統一地方選挙（前半）投開票 ６・９行動
	１０	月	
	１１	火	
	１２	水	京都「被爆二世・三世の会」４月例会（18 時 30 分・ラボール京都）
	１３	木	
	１４	金	キンカン行動
	１５	土	
	１６	日	統一地方選挙（後半）告示 G7 外相会議　→　４月 18 日（長野県軽井沢）
	１７	月	
	１８	火	
	１９	水	戦争法（安保法制）廃止をめざす 19 日行動（18 時 30 分・市役所前）
	２０	木	
	２１	金	キンカン行動
	２２	土	
	２３	日	統一地方選挙（後半）投開票 参院大分、衆院千葉５区・和歌山１区・山口２区・４区補欠選挙投開票
	２４	月	
	２５	火	
	２６	水	*チェルノブイリ原発事故（１９８６年）*
	２７	木	
	２８	金	沖縄デー　キンカン行動 *サンフランシスコ講和条約発効（１９５２年）*
	２９	土	昭和の日
	３０	日	*ベトナム戦争終結（１９７５年）*